

平成 25 年度 第 3 回平塚市博物館協議会会議録

■開催日時 平成 26 年 3 月 28 日（金）10 時～12 時

■開催場所 平塚市博物館特別研究室

■会議出席者（敬称略）

会 長 牧野 久実

副会長 宮川 重信

委 員 石綿 進一、猪俣 秀、熊澤 武彦、椿田 有希子

事務局 後藤社会教育部長、澤村館長、縣館長代理（管理担当長）、栗山主管（学芸担当長）

■傍聴者 1 名

■会議の概要

1 開 会

館長挨拶

2 議 事

（1）報告事項等について

- ・平成 25 年度事業報告
- ・平成 26 年度当初予算について

（2）平成 26 年度事業予定について

（3）その他

- ・事務連絡等
- ・春期特別展の解説と見学

■議事および質疑

○議題（1）－1 「学芸担当からの報告事項」

秋期特別展「びっくり・はてな資料展」、「博物館文化祭－サークル活動展示・発表－」を中心に、平成 25 年度事業の概要について事務局栗山学芸担当長が協議会説明資料により説明。

委 員 「蔵出し！びっくり・はてな資料展」ですが、残念ながら昨年より入館者が少なかったのですが、資料を見せていただいて、すごくわかり易いタイトルで、例えばイブニング・ミュージアム・ウィークのタイトルなどもとてもわかり易い。お子さんも対象にしているのかなと思ったのですが、時間帯が 18 時から 19 時ということで、せっかく開館時間を延長されていて職員の皆さんも大変だったと思うのですが、11 月から 12 月のこの時間帯は真っ暗だと思うんですね。たぶんお年寄りもお子さんも、子育て中の主婦の方なども出づらい時間帯で、すごくもったいないなと思います。それなら朝早めの方がまだ出やすいのかなと思いました。

25 年度の入館者数や観覧者状況では、数が減っていくというのはどこの館でも起こることなので、仕方ないことだと思いますが、後々何かの評価を受ける場合にこの点は見られるところだと思います。でもこういうデータがありますよというものも必要だと思いますが、そういうデータとして様々な事業の回数と参加人数があります。ここが平塚市博物館ががんばっているところですし、とても重要なポイントだと思います。実は

リピーターが多いですとか、ボランティアさんがこれだけいるんですよとか、地域の人たちと協働した事業がこれだけありますというようなことが、パッとみてわかるようなグラフのようなものに作っておくことが必要かなと思います。

印刷物ですが、以前から平塚市博物館は非常に重要な印刷物をたくさん作っていると思っています。今回いただいたものも拝見しますと、紙の質もいいしカラーもたくさん掲載されていて、現に「湘南の樹木」もよく売れていて、素晴らしいことだと思いますが、例えばPDF版で販売するというのも、今後は検討された方が良いかと思っています。特に、売り切れになってしまっているもの。最近ではお年寄りの方々でもタブレットを良く持っていらっしやいます。フィールドにも持ち歩けるということで、そういう販売方法も検討するといいいかなと思います。

委員 「蔵出し！びっくり・はてな資料展」ですが、見る方がただ見るだけではなく、考えながら見るということで、とても素晴らしい展示だと思いましたが、気になったのはアンケートで感想のところに「こどもには難しい」や「小学生にはむずかしい」「小中学生向きにやった方がいい」という意見がある点です。展示を見ながら考えるというのは小学生、中学生、高校生にこそやってほしいことだと思います。この点でのフォローなどは考えていますか。

事務局 打ち合わせの段階では小中学生にもわかるようにというのは考えていましたが、結果としてすこし難しくなってしまう、反省しています。実際にどういうふうになればわかり易いかという点については、今後学校の先生方と相談する機会があれば、積極的に話を聞きたい。学校の先生方の研修に博物館の学芸員が講師として呼ばれる機会がありますので、そういう中でも情報交換をしていきたい。

委員 入館者数などは大変なことだと思います。入館者数は気になるところですが、興味のある人とならない人がいます。私の地域の周辺でも年寄りの方がたくさんいらっしやいます。良い言い方ではないですが、暇つぶしをしているわけです。市の広報などは多くの情報を流していますが、こうした方々はパソコンを使う年代ではないし「知らない」ということがあります。たぶん博物館でもいろいろな情報を流していると思いますが、意外に見ていないと思います。

また、学芸員の知識と市民の興味を近づけるといいうのも大変なことだと思います。

○議題（1）－2「管理担当からの報告事項」

平成26年度当初予算について事務局縣管理担当長が協議会説明資料により説明。

委員 耐震に関して、確か学校の耐震を順番にやっていってその後で、ということだったと思いますが今回は入っていません。いつごろ入りますか。

事務局 平成20年度に二次診断を実施して「要補強」という結果が出ていますが、博物館は建物をいじるとなると展示等をやり替えなければならないという事情があります。それをどういう形でやればいいのか、補強だけでいいのか、展示や収蔵をできるだけいじらないでできる方法はないのかというような点をきちんと調べたいということで、調査委託の予算を毎年要求してきましたが、予算化できていません。

平成25年の4月に資産経営課という部署ができました。ファシリティマネジメントという、公共施設全体を市全体の財産と見て、どういうふうでどういう順番で改修していくのがいいのかということを考える部署ができて、平塚市内の公共施設の耐震化計画がほぼできています。その中で博物館、図書館、青少年会館などが、平成28年度以降に取り組む施設として位置付けられています。今までは単独でどうするのかを考えていましたが、市全体としての方向性は出てきています。ただ、それをどう具体化していくかというところはまだ見えていません。

委員 学校団体は多いですしその辺が気になりますが、具体化するのが28年度以降というのと、あと1、2年の間に何かあったときにどう対処するかは、考えておかなければいけないですね。

事務局 建物自体の話になりますので、突き詰めればそういう施設に集客してよいのかという話になってしまいます。しかし、現在開館している中で館の改修を進めるのも難しいと

考えています。

先ほど市全体での計画を申し上げましたが、27年度までに対処していく施設と28年度以降に先送りする施設がありまして、博物館は28年度以降になっています。現在博物館が指摘されている強度不足は3段階の表現、「OKなもの」「危険があるかもしれない」「危険なもの」のうちの間レベルです。そういうところも耐震補強の必要があるということですが、すぐにやるべきかという、優先順位の中では後ろの方になってしまいます。

委員 お金のかからない方法があればいいんですけど。

事務局 やはり、展示を含めいろいろなことが関係してきますので、やるならばきちんとやった方がいいということになると思います。ただ、建物自体の寿命ということもありますので、何かをやる時には市としてその次のことも視野に入れながら考える必要がありますから、博物館だけでどうするかを考えるのは難しいと思っています。

委員 システム改修のウィンドウズの更新がありますが、何台分でしょうか。

事務局 展示の中の3コーナーが関係しています。番組の制作等も含めて500万円強が予算としてついています。パソコンの台数としてはバックアップ用のものも必要になります。また、新しいOSにプログラムを移植する人件費等も予算には含まれています。また、コントロール用のPCだけではなく、地震と地盤のコーナーでは地震計のGPSシステムの更新も必要になっていますので、予算的には大きなものになっています。

委員 昔博物館で働いていたころの経験ですが、古いシステムを維持する形で更新すると高額な金額がかかりますが、考え方を変わるとすごく安価にできたりします。詳しいところはわからないので言えませんが、もしかするとそういう余地があるのかな、と思いました。たとえばウィンドウズエイトを使わずにセブンの型落ちのものを使うとか、人件費を使わずに自前でやってしまうとか。もしかすると見直すことができるのかなと思いました。

委員 予算はどれも厳しい状況であることは間違いないので、知恵を出して乗り越えていただきたいと思います。

○議題(2)「平成26年度事業予定について」

平成26年度教育普及事業の概要について事務局栗山学芸担当長が協議会説明資料により説明。

委員 夏休み中に文化施設3館が連携されるということですが、スタンプラリー以外には何か計画されていますか。

事務局 内容については3館で詰めている段階です。美術館が旅に関する絵本の特別展を開催しますので、絵本、あるいは旅をテーマに考えています。博物館では天文担当で宇宙に関する絵本の資料やノウハウを持っていますので、その展示を考えています。ただ、絵本ですから展示するだけでは面白くありません。手に取って見ることができるようにするための方法を検討しています。

委員 せっかくですから、スタンプだけではなく中身でもコラボしていただきたいです。

委員 博物館ではこれほど大勢の人たちが、深く連携しあって考えて、これだけのものを作り出している。素晴らしいことだと思います。ただ、市民の一人として考えると、日常の中で博物館に目を向けていませんでした。「それは博物館に行けばわかりますよ」とこれから言おうと思います。例えば「祭」ならここ、「戦争」ならここと専門の資料館は紹介しましたが、やはり近い場所でこれだけの行事があって、いろいろなスタッフがいるということで勧めたいと思います。素晴らしいものをスタッフだけでやっているのはもったいないので、より多くの人に関与できるようにしたいと思います。

委員 ちょっと奇異に感じたのは、普及事業の中で天文分野の体験学習がDNAをテーマにしていますね。これはベストマッチとは思えないのですが、このままの形で周知されると「あれっ」と思うのではないですか。具体的にはどのような内容でしょうか。

事務局 これは夏期特別展の関連行事の一つです。夏の特別展は天文分野が担当しますが、生命もテーマの一つにしています。具体的にはタマネギやブロッコリーなどを材料として細胞の観察から進めていきます。

- 委員 説明を受けるとわかります。
- 事務局 PRの段階では、夏期特別展の関連行事の一つとして周知していきます。
- 委員 学校の学習と合わせた展示というのもありますね。本来は子どもたちの学習というのも、自ら学ぶということで、博物館は資料を置いておいてあとは自由に学んでください、というスタンスでいいはずなんですが、今の子どもたちは何でも整えてもらうことに慣れていて、ここ数年で各博物館では学習用のシートを予め用意しておく例が多くて、私も驚くことがあります。
- 事務局 横浜では学年と単元名と、学習する際にどの資料を使ってどういうワークシートを作り、どういうスケジュールを組むかまで、全部学芸員が準備してホームページ上にいくつものセットを掲載しています。先生方はそれを見てそのまま印刷してそれを配って学習させるということをされているようです。平塚市博物館ではどうでしょう。
- 委員 以前に学芸担当のスタッフに学校の先生が入る時期がありました。その時に学習シートを作成しました。その後、展示替え等があってシートに載っていないものが増えてシートが使えなくなってしまっています。ただ、シートの一部分はコピーして使う、あるいは子ども向けの展示解説書にいくつかのミッションを載せていますのでそれを利用していただくことを、先生方にはご紹介しています。子ども向けの展示解説書はホームページでも見られるようになっていきます。学習シートの方は、ホームページに出しますとそのまま全部使えるという勘違いがあるといけませんから、見合わせています。
- 委員 先生方と協力して更新できるような仕組みができるといいと思いますが、やはりなかなか先生方もお忙しいですし、大変かもしれませんがいかがでしょう、
- 委員 やはり博物館は学校に近ければ、歩いて行って実際に見るのが一番いいのですが、バスで行っても30分以上かかるような学校では、半日から一日を費やしてしまいます。今の指導要領では各教科の学習内容が非常に多いわけです。そうすると、かつては発展学習の部分でいろいろな施設に行きましたが、そういう時間がなかなか取れなません。やはりホームページを活用していくしかないのかなと思いますので、ホームページの内容も小学生向けに考えていただきたいと思います。
- 事務局 行事でも「むかしのくらし」など学校に合わせていただいているものもあるようですので、インターネットでも活用できるといいなと思います。なかなか外に出かけるのも難しい学校もありますので、充実させていただけるとありがたいと思います。
- 委員 博物館の性格を考えたときに、子どもだけではなく大人にも言えることですが、博物館は必ずしも問題の答えを提供する施設ではないのではないのでしょうか。「こういうふうになれば皆さんで調べられますよ」ということを知っていただく施設だと思っています。現実には答えを提供する場合がありますが、本来提供すべきなのは、「こうすればわかります」という方法。皆さんがご自身で調べる活力を身につけていただくことが、地域全体の振興につながっていく、これが地域博物館の理想だと思います。
- 委員 そういう考えに基づけば、学校でのご利用というのも来館いただければ一番いいのですが、ホームページ等で「こういったことを調べると学校でも同じような勉強ができる」という方法を知っていただけるような工夫が必要かなと、今のご意見を伺って感じました。
- 委員 私が今学校の担任でしたら、こういう教科の指導内容と重なるような展示ですとか行事があると、博物館に今なら全員連れて来たいと思います。担任なら工夫すれば学校に居ながらも資料はあると思います。ですが、歩いてここに来ればここにしかないものもあるはずですよ。
- 委員 学芸員や館長の話聞いたということで子どもたちは「うわっ」ってなるんです。わかったとか理解とかではありません。例えば戦争の話聞いたならば、子ども用の資料がなくても「うわっ」となった気持ちで帰れば、おじいちゃんに聞こうとかおじさんに聞こうとか、学校でもっと調べようという活力みたいなものをもらえるのが博物館だと思います。子どもたちを「うわっ」とさせるものを博物館はいっぱい持っています。とにかく子どもが足を運んでみようというそのきっかけを、チラシや校長会でのおしらせなども使って作っていただきたい。毎年でなくても、そういうことが知られるようになれば、つながっていくのではないのでしょうか。

事務局 今、学芸員の話がきっかけとして有効というお話をいただきました。もちろん学芸員も大勢いるわけではありませんので、スケジュールのこともありますけれども、ご依頼をいただければ学芸員の派遣もやっておりますので、ご相談ください。

委員 博物館は答えを示すわけではなくて、そこから先にどういうふうに調べるか、方法を提示する場所という話がありましたが、その時にぜひ図書館との連携を進めていただけるとありがたいと思います。

MLA連携というミュージアム、ライブラリー、アーカイブの連携のなかで、平塚はアーカイブはありませんので、当面はミュージアムとライブラリー。調べたいとなったときにすぐ図書館に行って調べられるような連携を考えていただきたいと思います。

事務局 これまで平塚市博物館は会員制行事によって熟練した市民の方々を育て、一緒に調査や収集、研究をしていくということを行って、それが平塚市博物館の特徴になっています。しかし、その後を継ぐ世代を育てていかなければならないということです。会員制ですと新しい方が入りにくい環境になる傾向がありますから、少しハンドルを切って、自由参加の行事ですとかその都度参加できる行事の比率を増やすことを考えています。

比率の目安としては、博物館が開館5年目くらいに会員制の行事に大きくハンドルを切っている傾向がありますが、その時点に戻すのではなくそれが少し落ち着いた開館10年目くらいを参考にしながらやってみたいと思っています。

ただ、この点は委員の皆さまにも「それでいいのか」というご意見もあるのではないかと思います。それだけではうまくいなくて、行事の運営の方法ですとか内容についても合わせて対策していかなければいけないと思っています。今日はお時間も少ないですから、今後継続してお話を伺ってまいりたいと存じます。今後ともよろしくご意見をください。

○議題（3）「その他」

後藤社会教育部長より当面の課題認識について説明。

- ① 委員からの意見を聞きっぱなしにしない姿勢を指示している。
- ② 博物館事業内容以外の部分、運営の部分についても意見をいただく場としたい。
- ③ 参加者の高齢化、固定化の問題。
- ④ 地域、他部署との連携の推進。

委員 協議会での内容をフィードバックするという点では、開催時期を予算要求作業の前に設定した方が良い。

議題(3)「その他」事務連絡

- ・澤村館長、事務局縣管理担当長より次期協議会委員の依頼状況について説明
- ・次回日程はあらためて調整することとした

■春期特別展の解説と見学

以 上